

石川県部会における「学生等に伝わるコンテンツ（案）」

～誇り・頼もしさ・楽しさが感じられる取組を～

●土木・建築系学生へのアプローチの強化

1. 実習プログラムの充実

1) 構内実習プログラムの充実

測量実習、左官作業、重機運転などにおいて、建設業協会等が資機材を提供し、社員や職人が生徒を直接指導する実習を行う

2) 現地実習プログラムの充実

実際の工事現場等をフィールドとして提供し、測量や丁張り等の作業を生徒に体験してもらう

3) 現場見学会の工夫

発注者だけでなく現場代理人等が説明することや、先輩(学校のOB)、若手および女性の技術者等が活躍する現場を見せるなどの工夫を凝らす

※文化祭等の父母・父兄が参加するイベントにも積極的に協力

2. 座学・講義等の充実

1) 行政による「地域のものがたり講座（仮称）」の開設

北陸地方整備局や自治体においては、「どう造るか」ではなく、「(北陸地方で)なぜ造るのか、なぜ必要なのか」といった「地域のものがたり」について、行政の立場から教育機関や生徒に情報提供する

※出前講座のみならず、年間のカリキュラムに組み込むことも検討

2) インターシップの充実

単なる作業補助やお客様で終わらないために、仕事のやりがいを感じられるプログラム・コミュニケーションについて検討し、実施する

3. 建設界における情報共有

行政・建設業協会等は、求人情報、入職状況、離職状況等の情報を教育機関に提供するなど、建設界全体の情報共有に努める

●上記以外の学生等へのアプローチの強化

4. 小中学生、普通校高向けのメニューを、官民共同で検討

5. 父母・父兄が参加する現場見学会の開催

※旅行会社等との連携や高名な学識経験者プロデュースのインフラツーリズムの開催など

『学生等に伝わるコンテンツ（案）』に関する意見・提案

【北陸地方整備局】

＜提案①＞土木・建築系学生へのアプローチ

大学、高専等の年間を通じたカリキュラムに、以下のような『連続講座』を設置し、教育機関、建設関係団体、行政機関が連携して、建設界の魅力を伝えてはどうか。

1. 地域の成り立ちを知る（地域ものがたり講座）

社会資本整備について、「どう造るか」ではなく、「（北陸地方で）なぜ造るのか、なぜ必要なのか」といった「地域ものがたり」を伝える

2. 社会資本整備の実際の現場について事前に学習（反転授業）

現在行われている地域の社会資本整備について事前学習する

3. 実際の現場を自分の目で見て確認する（現場見学会）

発注者だけでなく現場代理人等が説明することや、先輩（学校のOB）、若手および女性の技術者等が活躍する現場を見せるなどの工夫を凝らした現場見学会を実施

4. 実際に自分でやってみる（構内実習、現場実習など）

①構内実習プログラム：測量実習や左官作業などにおいて、建設業協会等が資機材を提供し、社員や職人が生徒を直接指導する実習を行う

②現地実習プログラム：実際の工事現場等をフィールドとして提供し、測量や丁張り等の作業を生徒に体験してもらう

5. 実際に働いている先輩に自分の意見をぶつける（OBとの意見交換会）

建設界の各業種がどのような役割を果たしているのか、実際に働いている先輩達がどのような「誇り・やりがい・楽しさ」を感じながら仕事をしているかなどを知るとともに、先輩達へ自分の意見をぶつけることができる意見交流の場を用意する

＜提案②＞土木・建築系学生以外へのアプローチ

1. 土木学生の子供を持つ両親へのアプローチ

⇒ 両親を対象にした現場見学、OB意見交換会の実施

2. 普通高校・中学・小学生へのアプローチ

⇒ 授業の中で地域の物語講座など、建設界の魅力を伝える授業や見学会の実施

3. 一般の方々へのアプローチ

⇒ インフラツーリズムなど

【石川県教育委員会学校指導課】

・北陸地方整備局や自治体等の行政機関の講義のほか、建設業界の現場で働く方々が「やりがい」を伝える講義・講演を加えてはどうか。

→ 例 ダム、橋、道路建設の大事業、歴史的建造物の復元、修復等に從事した方
東日本大震災復興に向けて取り組んでいる方など

・上記以外の学生等へのアプローチの区分について、普通科高校や総合学科高校の生徒が土木・建築系大学等への進学者を増やす取組について加えてはどうか。

→ 普通科、総合学科高校へのキャリア教育、進路指導へのアプローチ

普通科、総合学科高校対象の講演会・インターンシップの内容、連携コーディネート

建設界、とりわけ、土木分野に関する人材育成・確保については、

1. 建築分野は本質的に「見える化」（建築分野では常に作品、構造物の「見せる化」、「見える化」）を図る）の分野であり、このことがその魅力づくりに強く貢献している。高校生、中学生そしてその両親をも魅きつけ、メディアにも取り上げられるなど（例えば、番組「ビフォアフター」など）、この「見える化」が人材育成・確保に好循環を生んでいる。一方、土木分野は「見える化」に乏しく（本質上、見えない構造物も多く、やむをえない面もあるが、ダムや河川堤防など「見える化」してもかなり均一的、同一的）、この建築分野の「見える化」に対峙する土木の魅力づくりとは何なのかを、産、官、学で真摯に考える必要あり。
2. たとえば、「命を護り、国土を守る」、「生活を支える」「社会を豊かにする」などの基本的立場に立ち、それぞれについて模型、写真、動画、などなどの資料収集を本格化する。
3. これらを駆使し、「生活インフラ」、「社会インフラ」がいかに重要で、社会を支えてきたか、などのストーリーや事実を小冊子やリーフレットにまとめ、高校生、中学生、その両親などを中心に地道に訴えていく。
4. 同時に、土木系の大学生と高校生あるいは中学生とのコラボで、土木構造物の一部やその模型づくり、他などの協働企画を強化したい。
5. 父親（あるいは母親）が作った土木構造物をその息子、娘に積極的に見せる体制づくり（産、官、学協働）。
6. 子供たちの中には、鉄道マニア、ロボットマニア、建設機械マニア？など土木分野にも関連するマニア分野に強く興味を持つ子供たちがいる。この子供マニアが興味を持つ分野に更なる土木関連の情報を提供し、興味を深め、長続きさせたい。
7. 「昔は、・・・で黙々と仕事・・・」「男は黙って・・・」「大きくて、厳しいながらもそこで一旗揚げ、故郷に錦を飾る・・・」は、今の若者には全く魅力的でなく、両親にも訴えないことを、肝に銘じたい。
8. 「地域創造」「これからは地域の時代」「地域活性化せずして、日本の活性化なし」など、今後の少子高齢化を睨めば「地域づくり」は極めて重要、その中でも土木分野が中心的な役割分担を担う。最近の若者に地元志向も多く、このウインウインの関係をうまく人材育成・確保に繋げたい。
9. 以上、重要性や魅力づくりの訴えだけに止まらず、待遇、職場環境、構造的な改革（下請け重層構造など）などにきちんと向き合い、建設界がクリーンでスマートとなるよう、常に改善して行かなければ、いつまで経ってもその本質が変わらず、人材育成・確保は困難となる。

【金沢市立工業高等学校】

石川県の建設業協会では様々な形で、協力・援助をいただいております。今年度も現場見学会では、対象学年以外の見学先の手配などもしいただき感謝しております。

本校の建築科へ入学してきている生徒の中には、保護者・親族が建設業界の関係者という方が多いです。という現実からもわかるように、今現在の労働環境（休日・労働時間など）の改善が行われれば自然と就業者が増えてくると考えています。

実習プログラムは、金沢建設業協会の方と実施していますし、木材加工については金沢職人大学校の協力を頂いてます。

中学生の進路活動の中で職業指導されるのがよいのではないかと思います。

【（一社）日本建設連合会北陸支部】

・当支部の会員企業から長岡工業高等専門学校に非常勤講師を5名派遣し、担当科目である「建設マネジメント」についての講義を行っている。

・本部では、毎年、5月と11月に「FOR STUDENTS」というPR誌を発行し、全国の大学と高専の学生に配布しています。会員企業の若手技術者の現場での活躍状況や座談会等内容の掲載など、建設界における情報提供を行っています。

（長岡技術科学大学、新潟大学、富山県立大学、金沢大学、福井大学に配布）

